

1. 本園の教育目標

- ・「わたし」を大切に、「みんな」も大切に子ども
- ・いっぱい「あそび」、自分の“好き”を見つけれられる子ども
- ・豊かな感性を持ち、自分の考えや気持ちを表現できる子ども
- ・健やかな心と丈夫な体をもつ子ども

2. 本年度の重点的に取り組む目標

- ①自然と触れ合いながら、豊かな感性を育む保育の展開を考える
- ②保護者に定期的な活動報告をすることで、保護者に幼稚園教育の意義を伝え、子どもの育ちを共有する。

3. 評価項目の達成および取り組み状況

評価基準 : A 達成している ・ B 一部達成している ・ C 一部改善を要する ・ D 改善を要する

重点目標	評価項目	評価指標及び評価結果						コメント	
		基準	取り組み指標	取組結果	基準	成果指標	成果結果		総括評価
①自然と触れ合いながら、豊かな感性を育む保育の展開を考える	自然に触れ合いながら、五感を研ぎ澄ます活動内容や環境構成の工夫	4	幼児同士共通のイメージをもって、自然物を選びに取り入れたり展開したりしていく	3.75	4	1つのテーマに向けて、友達とイメージを共有しながら遊びを深めていくようになる	3.75	A (3.75)	(担任(年少・年中・年長)) ・子どもの興味関心が広がるよう、柔軟な対応をすることはできるように感じる。 (雪が降ったら雪遊びに予定を変更するなど) ・図鑑マップを作り、草花・虫を探したり、調べる中で興味を持つことができた。 ・自然物を選びに取り入れたり、遊びをもっと楽しめるように進めていくことが難しかった。 ・子どもが身近に自然に触れる姿はあらゆる所で見られたが、そこからの展開(別の遊びの提案など)が足りていなかった。 ・季節の自然物を部屋にもって用意できたらよかったと思う。 ・子どもたちが興味を示したときに、自由に調べ物ができるよう、図鑑の種類を増やしてほしい。 (主任) 先生たちが各自でイメージしながら取り組んでいるよう、伝わりやすい言葉かけを心がける。保育室の環境を整える。 (主事) 各クラスが季節に応じた自然物を使った展開(活動や保育室の環境づくり)ができるよう、情報提供を心がける。
		3	子どもの興味関心が広がるよう、遊ぶ時間や環境を保障する		3	友達同士、気になる自然物を図鑑で調べたり絵本で探したりするようになる			
		2	保育室に自然を取り入れながら、身近な環境を整える		2	登園途中、自然物を友達や担任に見せたくて取ってくるようになる			
		1	指導計画の中に、自然と触れ合う体験を取り入れていく		1	季節のうつろいや自然の変化に気付くようになる			
②保護者に定期的な活動報告をすることで、保護者に幼稚園教育の意義を伝え、子どもの育ちを共有する	保護者と幼児の育ちを共有できる手紙やドキュメンテーション(写真・動画配信)の工夫	4	活動報告(ドキュメンテーション)に、さらに教師のねがいや、活動の意義を盛り込み、家庭でも取り組める関わり方を伝える工夫をする	3.75	4	行事や活動の意義を知らせることで、教育的意義を伝えられるようになり、幼児の成長を共有できるようになった	3.75	A (3.75)	(担任(年少・年中・年長)) ・ドキュメンテーションを使うことで、今まで以上に子どもたちの様子を伝えられた。文にしておくことも動画や写真で共有でき、保護者の方も喜びがあった。 ・相談や日頃の保護者の方との話の中でも成長や様々な様子を伝えられた。以前に比べて、家庭での取り組み方やどのように幼稚園で関わっているのかを伝えられるようになった。 ・ドキュメンテーションやクラスだよりでの活動を伝える際に、もっと目的や子どもの育ちを伝えていく必要がある。 (主任) ・活動の意義の一部の保護者には伝えられているが、全体にはあまり発信できていなかった。 ・先生たちが作成する時間を確保できるようにしたい。 (主事) 保護者の方々が園での様子や行事の様子でどんなことを知りたいのか、どんな様子を見たいのか、保護者アンケートで意見をもらうなどして反映していきたい。
		3	活動の内容や幼児の姿だけでなく、幼児の成長を伝える活動報告(ドキュメンテーション)を作成する		3	活動報告をすることで保護者と教師が積極的に幼児の育ちや成長を共有できる機会が増えていった			
		2	手紙だけでなく、写真や動画を使って、幼児の姿(様子)を配信する		2	活動を通した幼児の姿を保護者に伝えることができるようになった			
		1	行事や活動後に、活動内容を伝える手紙を配布する		1	活動を振り返って整理することができた			

4. 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

評価基準 : A 達成している ・ B 一部達成している ・ C 一部改善を要する ・ D 改善を要する

評価	理由
B	・1つ目の重点目標「自然と触れ合いながら、豊かな感性を育む保育の展開を考える」は、本園の教育目標である「豊かな感性を持ち、自分の考えや気持ちを表現できる子ども」を踏まえており、また豊かな感性を育むためには「自然」と触れ合うことが欠かせないであろうという考えのもとでの目標設定だった。本園の園庭が桜やチャウなど、緑あふれる環境であることから、 これまでも四季を通じて、子どもたちが園庭での外遊びで自然に触れる姿はあらゆる場面で見られていた。 各クラスで野菜を栽培してクッキングをするなどの食育活動で実践していた。本年は、そこからさらに踏み込んで、各クラスが季節的に自然物を使った製作や遊びの保育活動を展開した。特に秋の落ち葉やどんぐりの季節には、職員の声かけで、子どもたちが園庭に落ちるどんぐりをたくさん拾うようになったり、登園の途中で見つけた落ち葉やどんぐりを拾って職員に渡すなど、自然に対する意識が変わる姿が見られた。たくさん拾ったどんぐりは「どんぐりコースター」にして、子ども同士でルールを作って遊びを展開させるなど、秋の自然を満喫しているようだった。本園の教育目標に通じることから、今後も「自然と触れ合い」「豊かな感性を育む」を意識した保育の展開を実践していきたい。職員共通の認識として、自然物を使った保育室の環境づくりを十分に行うことが出来なかったので、今後の課題にしたい。 ・2つ目の重点目標「保護者に定期的な活動報告をすることで、保護者に幼稚園教育の意義を伝え、子どもの育ちを共有する」は、日々の保育や行事の様子を手紙だけでなく、写真や動画でも保護者に発信・共有するようになったことで、今まで以上に園での子どもたちの様子を知ることができるようになったと、保護者からも喜びの声が聞かれるようになった。職員共通認識の課題としては、日々の活動や行事の様子は伝えてきたが、「幼稚園教育の意義を伝える」というところで展開できていなかったため、来年度からの発信では、さらにそこを意識した発信を心がけるようにしたい。

5. 今後の取り組み課題

課題	具体的な取り組み方法
自然物を取り入れた保育室の環境づくり	・1年を通じて四季を感じられる環境づくりを1人1人が意識する。 ・職員間で情報(アイデアなど)を共有する。
保育活動や行事の発信の際に「幼稚園教育の意義」を伝える	・ドキュメンテーション(活動報告)発信の際に、「幼稚園教育の意義」や「子ども育ち」について触れられているか、1人1人が意識して作成する。 ・職員1人1人が、園が発信した情報(活動報告)を確認して共有する。

6. 学校関係者評価委員会の評価

- ・年度末の保護者アンケートにもあったように、季節の行事(落ち葉を集めたり、もちつき)や食育活動(栽培してクッキング)は保護者にとっては有り難い。家で野菜を栽培してクッキングをする、一緒に散歩して自然に触れる(落ち葉やどんぐりを拾う)など、忙しいなかから家でさせてあげたいけどなかなかさせてあげられないことを、季節や自然を大切にしていることで、園でしてもらえていると思う。
- ・食育(野菜の栽培)で、野菜の名前を覚えて帰ってきたり、家でも食べようとする姿が見られるようになったのが嬉しい。
- ・写真や動画の発信があるようになり、日々の姿を知られるようになった。子どもの楽しそうな姿を見ることができるようになり嬉しい。園で落ち葉やどんぐり拾いを楽しそうにしている姿が見て、持って帰ってきた自然物1つとっても、子どもの園の様子を共有できるようになった。(会話ができる)
- ・日々の活動の様子の中で、体操教室と英語教室の内容、給食の様子、ワークの様子などを知りたい。(給食だとお箸がだんだん上手く使えるようになったなど)
- ・先生方のおかげでできるようになったことをもっと発信してもらってもいいと思う。(これができるようになりたいなど)
- ・その他、写真販売がアプリでできるようになったのは本当に便利になったし、園だよりもアプリにアップしてもらえて外出先で助かる。
- ・アンケートでもあったが、園で保育後の習い事教室をしてもええと助かる。(体操・ピアノ・習字)
- ・市民センターでも親子で参加できる行事を行っているが、共働きが当たり前の時代、放課後の子どももの居場所が課題になっている。(市民センター館長)

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員

委員会実施日

令和7年 3月 21日